

特集

朝日トンネル

土浦—石岡

平成24年11月12日に開通した朝日トンネルは、土浦市小野地区と石岡市柴内地区を結ぶ、全長1784メートルのトンネルです。

平成18年11月に茨城県知事から合併市町村幹線道路緊急整備事業の指定を受けて以来、6年を経て開通に至ったこのトンネルは、両市の悲願でした。

今号では、両市の架け橋となるこの朝日トンネルの建設過程や、より近くなった石岡市の魅力にせまります。

路線のあらまし

朝日峠は土浦市と石岡市の境、筑波連山南東部に位置する標高298メートルの峠であり、峠道は通勤・通学や地域の生活道路として重要な役割を担っていました。また、頂上付近の「朝日峠展望公園」からは、霞ヶ浦や関東平野が一望でき、空気の澄んだ日には富士山も遠望できる絶景スポットとなっています。

しかし、この朝日峠の峠道は幅が狭く、急勾配なカーブが連続し、観光客を乗せた大型バスだけでなく一般車両の通り抜けも難しい状況でした。冬季には積雪や凍結によって通行が困難になることから、峠道のトンネル化が長年期待されていました。

平成24年11月12日、この朝日峠を貫く「朝日トンネル」が開通したことにより、約15〜20分を要していた峠越えが、約5分ほどに短縮されるとともに、円滑、安全な交通が確保され、この地域における「観光」、「産業」、「生活」に大きく貢献することが期待されます。



▲路面凍結などでたびたび通行止めとなっていた朝日峠



▲空からみた朝日トンネル

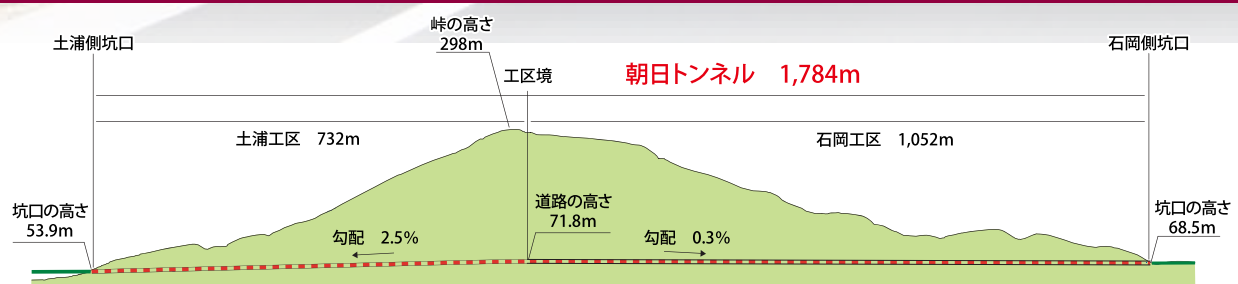


主な設備	
押しボタン式通報装置(消火栓付)	非常時に警察や消防などに通報できます。
非常電話	警察・消防に緊急連絡ができます。
誘導表示板	出口までの距離を表示します。
警報表示板	非常時に電光表示・サイレンで注意喚起します。
ジェットファン	非常時の排煙・換気を行います。

トンネル事業概要	
トンネル等級	A等級
トンネル延長	L=1,784m
車道幅員	W=6.0m(歩道なし)
換気方式	自然換気/非常時強制換気
内空断面	50.8~51.9㎡

全体事業概要	
事業名	朝日トンネル整備事業
事業箇所	土浦市小野～石岡市紫内地内
計画交通量	6,800台/日
道路規格	第3種第3級
設計速度	50km/h
全体事業延長	L=3,660m
供用開始	平成24年11月12日

トンネル縦断面図



朝日トンネルが できるまで

□朝日峠線道路整備促進協議会が発足【昭和62年】
旧新治村と旧八郷町などで構成。朝日峠のトンネル化の整備を県に要望する。

□つくば市・笠間市間道路整備促進協議会の設立【平成7年】
旧笠間市、旧つくば市、旧新治村、旧八郷町で構成。国道50号から県道土浦境界線までの道路整備を県に要望する。

□前記協議会に土浦市が加入【平成9年】
県に対し、積極的な要望活動を実施する。

□土浦市と新治村が合併【平成17・18年】
土浦市と新治村、石岡市と八郷町がそれぞれ合併する。

□朝日トンネル整備事業がスタート【平成19年】
石岡市と協力しながら、トンネルの詳細設計、地質調査、環境調査、用地測量などを始める。

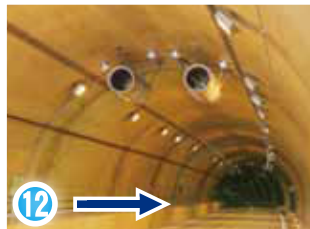
□トンネル本体工事に着手【平成22年】
土浦、石岡の両側から掘削が始まる。

□トンネルが貫通【平成23年4月】
その後、舗装・設備工事が始まる。

□トンネルの供用開始【平成24年11月12日】



トンネルが開通するまでに
さまざまな催しがありました



安全祈願祭

トンネル工事の着工前に、安全祈願祭を執り行いました。祭事に参列した関係者は、これから始まる工事が安全に完了するように祈願するとともに、自らの気持ちを引き締めました。

(平成22年3月25日)



トンネル貫通式典

土浦・石岡間1784メートルの掘削が完了し、トンネル坑内で式典を開催しました。「清めの儀」、「通り初めの儀」などが執り行われた後、樽神輿が担がれ、トンネルの貫通を盛大に祝いました。

(平成23年5月31日)



現場見学会

市民などを対象に、現場見学会を開催しました。(工期中随時)



到達式

石岡市への到達を記念して、到達式を挙行了しました。(平成23年2月28日)



トンネル工事を

のぞいてみよう

朝日トンネルの工事は、NATMという方法で施工しました。
NATMとは、掘削直後に地山に密着して吹付コンクリートとロックボルトを施工することで、地山の緩みを最小限に抑え、本来地山が有している支保能力を最大限に利用する工法です。

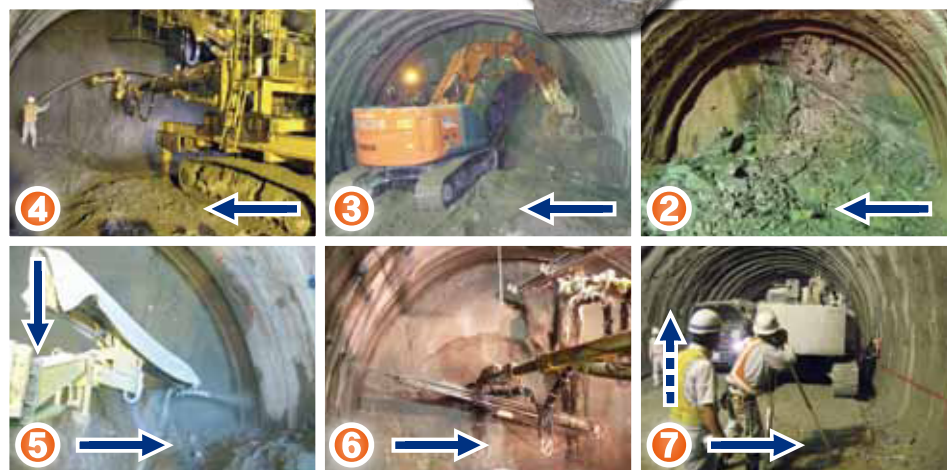
トンネル工事はどう進めるの？

- ① トンネルの入口(坑口)をつくる
 - ② ダイナマイトで表面を発破する
 - ③ ズリ(掘りだされた岩)を運び、表面を出す
 - ④ 鉄骨で側面を支える
 - ⑤ コンクリートを吹き付け安定させる
 - ⑥ ロックボルトを打ち込み補強する
 - ⑦ 測量で施工精度を管理
- ※②～⑦の作業を繰り返す。1日で4～6メートル進みます。
- ⑧ 側面に防水シートをはる
 - ⑨ コンクリートで覆う
 - ⑩ 道路舗装などの整備をする
 - ⑪ 坑門を整備する
 - ⑫ 設備工事を行う
 - ⑬ 完成

※工事現場から掘りだされた花崗岩



① ※トンネル工事前に、事務所の建設や騒音対策などの準備作業が行われます。



トンネルウォーク

開通前のトンネルを歩く、ウォーキング大会を開催。往復した約3500人の参加者に、完歩証明書を贈呈しました。特産物の販売や建設時の写真展示、スタンプラリーなどが行われ、大いに賑わいました。
(平成24年11月10日)



防災訓練

トンネル坑内で車両交通事故・火災が発生したことを想定した防災訓練を行いました。救助搬送や消火活動など、本番さながらの訓練が実施され、万が一の事故に備えた対処方法を確認しました。
(平成24年11月2日)



開通式・供用開始



当日は、新しいトンネルをいち早く通ろうと、車両の行列ができました。(平成24年11月12日)



トレイルラン・トレックウォーク大会

トンネル内やハイキングコースなどの山道を走るトレイルランを開催。トンネル周辺を散策するトレックウォークも行われ、約260人の参加者たちは、青空のもと筑波山麓の自然を満喫していました。
(平成24年11月3日)



花と歴史 浪漫香るまち 石岡



石岡のおまつり (常陸國總社宮例大祭)

毎年9月の敬老の日を最終日とする3日間に開催される祭り。江戸時代元禄期に「家内安全」、「無病息災」を祈願する祭として発展しました。格式高い神輿をはじめ絢爛豪華な山車や幌獅子が、40数台巡行します。

関東三大祭の一つとされ、3日間で40万人もの見物客が訪れます。



茨城県フラワーパーク

春と秋に650品種3万株のバラが咲き競うバラのテラスや、200品種のボタン園、日本一の群生を誇る100万株のシャガと1万2000株のやまゆりなど、筑波山の懷に抱かれた花と緑の楽園です。

ふれあいの森では、総延長800メートルの花のすべり台やフラワーサイクルが楽しめます。



体験型観光施設 朝日里山学校

木造校舎の元小学校を活用した体験型の観光施設。田植えや野菜の収穫などの「農業体験」、地元食材を使用したピザ作りやそば打ちなどの「食の体験」など、自然を活かした色々な体験メニューが楽しめます。

土浦市の北に位置する石岡市。この地域は、筑波山麓の豊かな自然に抱かれ、癒しの里であると同時に、西暦646年大化の改新によって常陸の国の国府が置かれ、以来1300年という悠久のときが眠る歴史の里でもあります。ここでは、朝日トンネルの開通によってより身近になった石岡市の魅力を紹介します。

歳時記

4月 さくらまつり(常陸風土記の丘)

4月上旬のソメイヨシノからはじまり、シダレザクラ、ボタンザクラと、約1か月間桜を楽しめます。

6月 ゆりまつり(常陸風土記の丘)

水際公園を中心に、鮮やかな赤、黄、橙色のスカシユリの花が夏の青空に向かって咲き誇ります。

6・10月 バラまつり(茨城県フラワーパーク)

園内に漂う上品な香りと華麗なバラに囲まれながら、優雅なひと時を楽しめます。

7月 柿岡のおまつり(柿岡地区)

県指定無形民俗文化財の柿岡からくり人形や、館の獅子、荒宿ささら、山車などが練り歩きます。

8月 真家みたま踊り(真家地区)

平安時代から続く念仏踊りで、国選択無形文化財、県指定無形民俗文化財に指定されています。

9月 石岡のおまつり(石岡市内)

富田ささらと呼ばれる供奉行列や石岡ばやしなども県指定無形文化財に指定されており見逃せません。

2月 石岡ひな巡り(石岡市内)

石岡駅前の御幸通りや中町通りの約100店舗の店先に、つるし飾りやひな人形などが飾られます。



果物狩り

石岡市は豊かな水と温暖な気候に恵まれ、上質な果物が生産されており、中でも毎年皇室へ献上されている富有柿は石岡の誇るブランド柿として有名です。

さまざまな果物が栽培され、観光果樹園では1年を通じて果物狩りが楽しめます。週末や休日は多くの来園客で賑わっています。

さまざまな果物が栽培され、観光果樹園では1年を通じて果物狩りが楽しめます。週末や休日は多くの来園客で賑わっています。



土浦市公園街路課
主査 草間正志さん

このたびのトンネル整備は、両市にとって未経験の事業でした。事業を円滑に進めるため、立場の異なる担当職員同士が一緒にいる時間を確保し、綿密な情報共有と打合せを繰り返し行いました。共に協力し合って取り組んだ結果、当初予定していた工期を数か月短縮して開通を迎えることができました。

「完成」という共通目的 絆が結ぶトンネル

この事業に携わった多くの担当者が、完成という一つの結果を目指し尽力してきました。そうした経験を通して、単なる「市道の完成」という事実だけではなく、さまざまなものを得ることができたと感じています。

このトンネルが、両市の観光・自然・歴史資源を結びつけ、ヒト・モノ・情報を運ぶ重要な基盤として活用され、両市がいつそう発展していくことを切に願っています。



石岡市商工観光課
課長 越渡康弘さん

朝日トンネル開通を記念した両市主催のトレイルラン大会の開催に際し、土浦市の皆さま方には大変お世話になりましたこと、この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。

このたび、待望の朝日トンネルが開通したわけですが、この

地域の活性化 両市の連携がカギ

開通に伴って土浦市と石岡市を結ぶ円滑な交通網が確立されたことは、両市の発展に多大な効果を及ぼすと確信しています。

特に観光面においては、両市が連携し、互いが持つ豊富な観光資源を有機的に結合させることで、魅力ある地域が形成され、首都圏などからの交流人口が増加していくのではないかと考えています。

今後さらなる連携と英知の集結することで、両市の観光振興、ひいては地域振興が図られることを期待しています。

小町の館が リニューアルします

小町の館は、来訪者の休憩施設や、そば打ちなどの体験が出来る工房棟を新築しています。

また、本館も全館改修工事を行い、小野小町の伝承や小町の里周辺および市内の各種情報を提供する、ビジターセンターとしての機能を持った、おもてなしに満ちた交流拠点として生まれ変わります。

問 商工観光課 ☎826-1111 内線7605

平成25年3月下旬完成予定



小町の館完成予想図



土浦市農業委員
藤井義勝さん

開通当日やトンネルウォークは、今までにない賑わいを見せ、小町の館近辺も開館以来最も来客があつたように思います。開通後も散策などを楽しむ家族が多く訪れ、「トンネルの効果」を感じています。

この効果を一過性のものにせず、

地元と行政の協働でつくる 新たな魅力発信地へ

まず、周辺地域を単なる通過点にしないためには、誰でも気軽に訪れることができる雰囲気作りや魅力発信が必要だと考えています。そのためには地元の人々が地域の活性化に関心をもち、行政と一体となつて盛り上げていかなければなりません。

私自身も草の根運動ではありますが、草花を植えるなどの取り組みをしてきました。

行政と共に、地元の手で地域を元気にする。トンネルの開通がその契機になってくれることを期待しています。